経営比較分析表(平成29年度決算)

③流動比率(%)

3 008 17

391 54

「支払能力」

⑦施設利用率(%)

兵庫県 福崎町

125 00

120 00

115 00

110 00

105 00

100 00

95.00

当該値

平均値

120 00

115.00

110.00

105 00

100.00

95.00

90.00

当該値

平均値

105 44

114 02

100.47

121.78

106, 55

①経常収支比率(%)

115.08

111, 21

「経常損益」

⑤料金回収率(%)

112 06

101.72

110 03

102.38

112.10

111, 71

118.56

110.01

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
ı	82. 26	99. 50	1, 980	

12 00

10.00

8.00

6.00

4.00

2 00

0.00

当該値 0.00

平均値

200.00

180 00

160.00

140.00

120.00

100.00

80.00

60.00

40.00

20 00

0.00

当該値

H25

9 56

H26

0.00

2.80

[113.39]

108.82

110.05

[104.36]

H29

104 61

100.12

②累積欠損金比率(%)

H27

0 00

1.93

「累積欠損」

⑥給水原価(円)

104 99

168. 20

107 71

168. 67

H28

0.00

1.72

	人口 (人)	面積(km²)	人口密度(人/km²)
I	19, 390	45. 79	423. 45
ſ	現在給水人口(人)	給水区域面積(km²)	給水人口密度(人/km²)
ſ	19, 235	45. 79	420. 07

450 00

400.00

350.00

300 00

250.00

200 00

150.00

100.00

50.00

0.00

当該値 62 48

平均値

100 00

95.00

90.00

85.00

80.00

当該値

平均値 83.09

91 94

400.38

[264.34]

H29

1 086 09

359 47

[60.41]

72 03

55.63

H28

2, 098. 22

384 34

類似団体平均値(平均値) 【】 平成29年度全国平均

[274.27]

H29

338 91

401.79

[89.93]

H29

94 79

82.04

グラフ凡例

分析欄 経営の健全性・効率性について

当該団体値(当該値)

過去5年間においては、開発協力金制度の廃止に

平成25年度からは企業債の発行により④企業債残 高対給水収益比率が上昇していたが、平成29年度は 企業債を発行しなかったことで下降に転じ、類似団 体の平均以下の比率を維持することができている。 今後も自己資金とのバランスを考慮し、適正な資金

今後の水道事業の運営に関する方向性と施策推進 D基本的な考え方を示した「水道ビジョン」及び の執行方針を継続的に検討していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

本町の水道事業においては、償却対象資産の老朽 との度合いを示す①有形固定資産減価償却率は類似 団体平均よりも低い水準を維持しており、平成29年

当町では、平成22~24年度にかけて類似団体平均 を大きく上回る水準で管路更新をしており、積極的 な更新投資をしてきたことで老朽化は比較的抑制で

今後は、現在は正確に把握できていない②管路経 年化率の把握に取り組み、管路を含めた施設の更新 を計画的に進めることにより、安定した水道サービ スの供給に努める。

本町の水道事業は、「1. 経営の健全性・効率

生」や「2.老朽化の状況」から見ても、類似団体

しかし、今後は人口減少や節水型機器の普及によ

る給水収益の減少に加え、下水道事業に付随する管

路の敷設・更新等に起因する工事費縮減は難しくな

るため、良好な状況を継続することは難しくなるこ

とが予想される中、財政状況を分析し、コスト削減

などの適切な措置をとることで施設更新にかかる財

また、将来にわたり健全な経営を維持していくた

めに、中長期的な経営の基本方針となる経営戦略を 策定し、定期的に検証をし、また適時に更新するこ

とで、今後の経営環境の変化に対応していく必要が

源を確保していく必要があると考える。

あると認識している。

平均と比べ概ね良好な経営状況にあると判断され

よる収益の減少や、施設の更新等による減価償却費 の増加等により①経常収支比率は下降傾向にあり、 平成29年度には類似団体平均をわずかに下回ったも のの100%は維持しており、②累積欠損はなく、③ 流動比率も類似団体平均より高い状態が続いてい る。これは⑤料金回収率が高く、⑥給水原価を抑制 することで収益性を維持し、⑦施設利用率及び⑧有 収率を比較的高い水準で維持していることによるも のと考えられる。

の管理に努める必要があると考える。

人口の減少や節水型機器の普及による給水収益の 減等により、事業収益は漸減に転じていくことが予 想され、適正な料金水準は上昇していくと考えられ る。加えて、これまでは下水道の施設拡張に付随し て管路の整備を実施してきたことが給水原価の抑制 の一因となっていたが、今後はこのような工事費縮 減の見込むことは難しくなると思われる。

「経営戦略」を平成30年度に策定するが、定期的に 検証を重ねることにより、料金水準の設定や町財政 と町民の負担の適切な均衡の保持を含めた水道事業

全体総括

度は③管路更新率も類似団体平均を上回っている。

きていると考える。

平均値 「料金水準の適切性」 「費用の効率性」

111 16

177. 14

102 59

169.82



H27

69 75

54.77

70 15

54. 92

「供給した配水量の効率性」

95 61

82.89

H26

93 63

83.00

④企業債務高対給水収益比率(%)

H27

339 66

386 97

「債務残高」

⑧有収率(%)

H28

350 38

380 58

H28

96 31

82.66

H26

188 71

393 27

2. 老朽化の状況

1. 経営の健全性・効率性

16 000 00

14, 000. 00

12,000.00

10,000.00

8, 000. 00

6,000,00

4 000 00

2, 000, 00

平均値

80 00

70.00

60.00

50.00

40.00

30.00

20.00

10 00

0.00

当該値

平均値

71 28

55.64

69 97

55. 13

0.00

当該値 13 447 74

963 24

3 051 87

381 53

[0.85]

H29

0.00

2 64

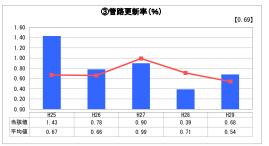
[165.71]

114 01

174.97







「管路の更新投資の実施状況」

「管路の経年化の状況」

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。